

# 第1回丹波篠山市総合教育会議 議事録

## 1 日 時

令和2年6月9日（火） 13時30分～15時42分

## 2 場 所

丹波篠山市立四季の森生涯学習センター西館2階 研修室大

## 3 会議に出席した構成員

市 長 酒井 隆明

教育委員会

教 育 長 前川 修哉

教育委員 酒井 克典

教育委員 中村 貴子

教育委員 垣内 敬造

教育委員 山本 恭子

## 4 事務局出席者

部長 稲山 悟

次長 酒井 宏

教育総務課 課長 中野 悟

学校教育課 課長 尾松 直樹

社会教育課 課長 小林 康弘

教育総務課 係長 田中 真紀子

教育総務課 主査 齋藤 恵美

## 5 次第及び協議・調整事項

別紙の通り

酒井市長	<p>1 開会</p> <p>6月から学校が再開となり、お忙しい中、総合教育会議を開催しましたところ、お集まりいただいたことにお礼申し上げます。</p> <p>本日は、部活のあり方について検討する。</p>
酒井市長	<p>2 協議事項</p> <p>(1) 中学校の部活動について</p> <p>令和2年3月27日開催の「令和元年度第4回丹波篠山市総合教育会議」の内容を受けて、兵庫県中学校体育連盟（以下「中体連」とする。）や兵庫県教育委員会（以下「県教委」とする。）へ出向き考え方を聞いてきた。</p> <p>まず、前回会議については、校長会から2名の校長に来ていただき意見を述べていただいているので、その内容を前回の議事録から整理をしていきたいと思う。</p> <p>【資料1「令和元年度第4回丹波篠山市総合教育会議 議事録」1ページから6ページの校長退席までを読み上げ】</p> <p>資料2「いきいき運動部活動」は、兵庫県教育委員会が出しているものであるので、これに基づいて部活動がされるということになる。</p> <p>【資料2「いきいき運動部活動」読み上げ】</p> <p>【資料3「兵庫県中学校体育連盟との協議録」読み上げ】</p> <p>【資料4「兵庫県教育委員会事務局体育保険課との協議録」読み上げ】</p> <p>資料5「部活動のあり方、考え方の相違」は校長の話と中体連、県教委で聞いた話について、相違点を整理したものである。</p> <p>【資料5「部活動のあり方、考え方の相違」読み上げ】</p> <p>【追加資料「篠山東中学校ソフトボール部保護者会意見」、「中学校の部活についての保護者の声」読み上げ】</p>
酒井委員	<p>資料5の中で疑問点がある。県教委の考え方についてお聞きしたい。資料5の「部活の考え方、適正数」の県教委の意見は「先生の数や管理体制から部活動の数を導き出すのは正しいものではありません」となっている。一方、資料2「いきいき運動部活動」9ページの「運動部活動の活性化を図る取組」の中で、②「校長は、適正な数の運動部を設置し、活動内容の把握に努め」となっており、①では「運動部顧問の決定に当たっては、教</p>

酒井市長	<p>員の他の校務分掌を勘案した上で、適切な校務分掌となるよう留意し」となっている。つまり、校長は教員の数や校務分掌を勘案した上で適正な数を決定する権限があると述べてある。どちらが正しいのか。</p> <p>厳密に適正な数は無いと言いながら、小規模校で多くの部活動を見ることはできないため、おのずと数は決まる。</p> <p>しかし、考え方の前提として、教員が何人だから部活が何個という機械的なことではなく、できるだけ生徒の自主性、自発性を認めることを優先することが大事なことである。そうして、学校規模に応じて部活動数が決まってくるということである。一番大事なことは何かというと、子供たちができるだけやりたいことをさせてやろうという気持ちをもつことである。始めから教員の数で決まるというものではない。</p>
酒井委員	<p>今回の篠山東中学校の件では、始めから職員の数ありきで部活数を決めていたのか。これまでの話の経過の中で、「子供のやりたいことを優先する」という前提の中で、やむを得ずそのような決定がなされたと思っていた。</p>
前川教育長	<p>職員の数から部活動を設置することを学校は考えておらず、前提としてもいない。子供たちの数が少なくなっていくことは、今に始まったことではなく、ここ何年間か中学校現場ではずっと課題であった。職員の数がこれだけだから、今年はこれということはない。小規模の中で団体種目を維持していくことの難しさはずっとあった。まずは子供の希望、やりたいことが優先され、合同チームもここ何年間かずとしてきている。</p>
酒井委員	<p>それを前提に今、市長が言われたようにその中で部活動指導員に対する見方について、やはり学校現場というのは、「この人たちに任したら大変である」という思いを前面に出されている。しかし、県教委は今の県の大きな流れの中で、部活動指導員を活用するしか道はないという話を市長ともされている。人材確保や、できるだけ子供たちのやりたいことをやってもらう体制をどうしていくかということを引きつりと整理したらどうかと思う。</p>
前川教育長	<p>資料5の「複数顧問制は教員に限るのか」について、両校長が言われている部活動指導員についてだが、教育委員会も反省しなければいけないことであるが、うまくいった成功例や良かったという前例を積み上げていくしかない。実際の問題として、顧問と外部の部活動指導員が指導に当たって、うまくいかなかった例がある。だからと言って、教員だけに任せていけばうまくいくかということそうでもない。ここは、過渡期であり部活動指導員制度をうまく使っていくことが大事なことである。</p> <p>校長たちも若かりし頃、スポーツを通しての指導を自分一人でやってきたという成功体験が強いと思う。しかし時代はそうではないので、複数での指導、もしくは信頼できる部活動指導員に任せていくような関係づくりを教育委員会も一緒になってしていかなければならない。そこで、今までの部活動支援員は、選定する際に校長推薦としていたが、今年からはスポ</p>

酒井委員	<p>ーツ推進委員にも審査に入っただけで採用方式に変えた。市全体から部活動をどうするかという仕組みを考えていかないとこの問題は解決しないと考えている。</p> <p>以前の会議で、部活動指導員と言われる人たちをもっと学校へ引き込もうとしていたが、事務局は、「学校の反応はまだマイナスだ」と捉えていたようだったが、学校がそこを変えていかざるを得ないところがあるのではないかと思う。</p> <p>部活動は、教員だけでできるものではないから、部活動指導員の協力を得て子どもたちの夢を叶えるために地域全体で行うシステムを作らないと難しいと思う。</p> <p>ただ、いじめや友達同士のトラブル等の問題行動の報告を聞いていたら部活動の時の方が教科の時より多い。そのため、学校側が非常に神経を使っておられると思う。</p> <p>しかし、教育長が言われたような方向性に変えていかなければ維持できない。</p>
酒井市長	いじめが部活からということよいか。
酒井委員	その時もある。すべてではない。いろんなときに問題行動が起こる。
酒井市長	そういうこともあったということか。
酒井委員	そうである。
中村委員	<p>合同チームについて、救済措置ではなくホッケー部のような地域単位の合同チームへの改正を国に要望して、少子化に向けた取組を推進してほしい。無理な場合は合同チームも致し方がない。ただ、合同チームの問題点として、部活が2時間しかないのに学校から移動しているだけで、部活の時間を確保できるのかということが疑問である。</p>
酒井市長	毎日一緒に練習しないと思う。
中村委員	<p>それであれば、保護者が希望されている移動や送迎の市バスというのはどういうことか。</p>
酒井市長	<p>毎日ではないと思う。毎日合同でしなくても、各学校で練習しておいて、週末などに合同練習をしたらよいのではないかと考える。</p> <p>その時に送迎を保護者がしないといけないとなると負担が大きいので、市が支援をしなければならぬと思う。</p>
中村委員	<p>顧問不在時のルール作りを早急にしないといけないと考える。専門家の意見も聞いて教育委員会だけでなく社会教育関係者、民間、地域のスポーツ団体とも連携できればと思う。</p>
酒井市長	<p>学校や校長は、「部活は学校のことなので、学校が決めればよい。他の意見は部外者の声だ。」と考えておられると思う。その考え方を変えなければ、部活動指導員が来てもうまくいかないと思う。部活動指導員は公務員なので、教員と同じ責任を持つといった考え方を持たなければならぬ。開かれた学校になるように考えていただかないと、部活を減らすという考え方になってしまっている。</p>

酒井委員	<p>これまで学校というのは24時間子どもたちの管理をしていた。子どもが問題行動を起こした時、それが20時、21時であった場合に誰が行くのか。教員が行って探していた。何かあれば24時間学校が対応していた。</p> <p>しかし、そうではなく、地域や家庭に任せるところを作り、力を合わせてできるようにしたら良いと思う。子どもたちの暮らしは、学校だけでなく地域みんなで応援していくものである。学校だけに責任を押し付けて、学校で部活動をしているから、子どもは家で何もしなくていいという考え方があった時代もある。特に中学校は24時間体制で対応していた。そのため中学校現場はなおのこと学校がしなければならないとされているのではないか。丹波篠山の教育について、学校運営協議会等を含めて地域を挙げて考えていくことが大事なことはないかと思う。</p>
酒井市長	<p>私が難しいと思ったのは、教員の指導についてである。特に校長となると誰が指導するのか。</p>
酒井委員	<p>指導助言については、教育長以下教育委員会が行う。ただ、学校も学校環境を改善するために様々な対応を行っている中で、部活動の問題だけについて、結果的に何も変わらなかったと言われたら立場がない。丹波篠山の教育をよりよくするため校長に良きアドバイスをすることが、教育委員会事務局の職務権限であると思っている。</p>
前川教育長	<p>私は教員になって、教員に指導することはなんと難しいことかと思っている。教育長になってからも、教員に指導することは、難しいでしょうと様々な方から言われた。</p> <p>周りから教員と言われるようになれば、より謙虚になっていかなければならない。だから、謙虚さ、反省するという姿勢を持つ教育現場を作ろうとしている。これは教員方が傲慢であるといったことではなく、そこに焦点を当てた教育委員会でありたい。「おかしい」ということが言えること、考えの違いが議論できるような、コミュニティ・スクールのような場は、違う視点が入るため、本当に良い場である。</p> <p>こういった取り組みは、取りかかったばかりで課題は多い。今、校長を誰が指導するのかと言われたが、それは指導主事であったり、私であったり、また、校長自身が自ら作り上げていくところもないと管理職は務まらない。耳を貸さなくなったら組織は伸びないので、研修を含めて力を入れていきたい。</p>
酒井市長	<p>総合教育会議に市長が入っていることはよいと考える。私は、市民の声が何より大事と思っており、声を聴くようにしている。しかし、学校は違って学校が独断で判断していると思う。市民の声を聴いて判断するべきでは無いか。</p>
酒井委員	<p>そもそも部活動の指導がなぜ難しいかという、校長が勤務時間終了後の部活動について教員に対して「こうなさい」ということが言えるかどうかである。</p> <p>今、全国的な問題になっているのが、部活動の顧問はしないと</p>

酒井市長	<p>る教員に対して職務命令は出せないのではないかということである。部活動は教育活動上非常に大事なものはあるけれども、曖昧な部分がある。部活動は、勤務時間終了後になるため、教員に頼まざるを得ない状況である。そうしてやっと学校が回っている現状があるため、ブラック化を防いで、学校の中で職員が教科についても部活動についても、生活指導についても子どもたちを第一に感じられるゆとりがないと難しいと思う。</p> <p>私もそう思う。若いころに部活で熱心に指導されていた方が校長になったとしても、教員の中で、自分が学生の頃、部活に打ち込んだことのない方であれば、自分が教員になったからといって打ち込むわけがない。</p> <p>そういった教員の割合が多くなると、校長は、そういった教員も相手にしてその体制を作らなければいけないので、部活数を減らさざるを得ないという発想になってきたのではないかと推察される。</p> <p>しかし、それでは本末転倒である。門戸を開き部活動指導員を入れ、公務員として、特定の部活動だけでなく、全体的に部活動を見ていくような方も含めて、学校に受け入れてもらわなければいけない。今学校は、部活動指導員に来てもらいたくないと考えている。考え方を変えて部活動指導員に来てもらい、教員が見なければならない部分以外を見てもらうようにするしかない。</p>
山本委員	<p>保護者としての話になってしまうが、部活も子供のためのものであるもので、子供や保護者の意見を聞いていただくことは大切だと思う。ただ、私は、今回の件で学校現場の実情を知り、とても難しい問題であると感じている。何が一番大切かとなると子どもになると思うので、こうした話し合いの場があることは大切と感じる。</p>
酒井市長	<p>教員はブラックなのか。勤務時間が長時間になることもわかるが、子供たちのためであることがブラックとは思わない。</p> <p>世の中には、コロナの状況で明日から仕事をしようにもできない人がたくさんいる。収入が無い人もいる。しかし、私たちは少なくとも収入は保障される。そして公務員として生涯にわたって身分も保証されている。それをブラックということは、市民には通用しにくいと思う。時間外勤務をしろと言っているわけではないが、それくらいの気持ちを持つのが教員ではないか。</p>
酒井委員	<p>市長は今、時間外勤務をしなくても良いと言われたが、時間外勤務をしなければ回らないのが学校現場である。働き方改革の中で、現状を変えていこうということが大きな流れである。そのため、学校がブラックではないとは言いきれないと思う。</p>
酒井市長 前川教育長	<p>それであれば、市役所もブラックである。</p> <p>資料2の3ページの「スポーツ医・科学の見地からの指導」を部活動に取り入れたいと考えて、やってきた。</p> <p>教員は、保護者や生徒から評価される立場にある。私の時代は、量的に汗を流している時間が多いと、良い評価される時代であった。土日も家庭</p>

	<p>を顧みず部活動に取り組むことが評価された時代もあったと思う。しかし、今教員や教育委員会に求められているのは、子供たちの実態に応じて、質の良い汗をかくことである。</p> <p>これからの子供たちに社会が求めていることも生産性を高めることである。人間の成長に必要なことは効率だけではないが、エビデンスを基にものを考えるという思考方法が必要となってくる。部活動においてもスキルを高めるため、子供たち自身が考え、工夫することが必要である。</p> <p>学校も意識を変えていかなければならないが、地域や大人も学校を見る目を変えていかないと成功しないと思う。そのための鍵が「スポーツ医・科学の見地からの指導」であると思っている。</p> <p>これが中学校に取り入れられれば、合同チームについても週何日かの合同練習でできると考えられる。ただし、チームプレーについては合同チームの難しさがある。プロではないので、スキルを高めただけで、いきなりチームを作ってもうまくいかない。アマチュアであるからこそ、普段の生活を共にする、クラスで一緒にいることを大切にしておかなければ、合同チームといってもかみ合わない。これが、部活動で組織する合同チームの難しいことであると思う。</p> <p>現在、丹波篠山市では、部員の少ない学校同士で合同チームを組まざるを得ない状況である。東西に分けての合同チームも中体連に提案したが、今は認められないとのことであった。</p>
<p>中村委員 酒井市長</p>	<p>「今は」ということは今後、可能性があるのか。</p> <p>できない。それを中体連に確認してきた。本来、部活動は学校単位でするものであるため、人数が足りない場合に合同チームは認めるけれども、「丹波篠山市で1チーム」はできない。</p>
<p>中村委員</p>	<p>専門的なスポーツや科学に長けた方に部活動に入っていただくことは今後、可能になっていくのか。</p>
<p>前川教育長 酒井委員</p>	<p>可能である。また、教職員を対象に研修会も行っている。</p> <p>問題は人材である。例えば、合同チームを組んでも週のうちほとんどの練習を各校でするのであれば、各学校に顧問が必要である。その顧問をどうするかということも考えていかないと難しいと思う。今の部活動の指導は生徒を動かす指導である。そのために、顧問は頭を使わないといけない。部活についても学習についても知的労働である。教員は自分たちで考えて創意工夫をして子どもたちを育てる必要がある。そして、その教育を受けた子どもたちが同様の考え方に育っていく。「労働生産性を高めるためにどうするのか」ということを考えるゆとりがないと学校現場は変わっていかないと思う。外部の方を入れながら知的にももの考える時間、子どもと向き合う時間を確保してそのうえで部活も大事にする学校になればと思う。</p>
<p>山本委員</p>	<p>部活動指導員について公募をされたとのことであるが、ホームページ等に掲載されていたのか。</p>

尾松課長	ホームページに掲載した。今年度は面接試験を実施し10名の方を採用し、配置した。複数の中学校を兼ねている方もあり、5中学校16部活動に配置している。主な略歴は、元保護者、地域の方が5名、地域におられる専門の方1名、元教員や現在、会計年度任用職員として勤務されている方4名である。
山本委員	応募は自身で申し込まれた方のみか。推薦はあったのか。
尾松課長	これまでから部活動支援員として学校に関わっている方に公募する旨を伝えた。また、自主的に応募された方もある。中には、他市から応募された方もあり、広く公募ができたと思う。
酒井市長	部活動指導員の給与等の待遇はどうなっているか。
尾松課長	時給1,353円である。
酒井市長	1日の勤務時間は何時間か。
尾松課長	平日であれば、授業終了後になるため2時間程度で月40時間を上限としている。
酒井委員	専門職であるのに時給1,353円は安いと感じる。条件的に厳しいのではと考える。部活動を任せることのできる専門的な人材を集めるのであれば、それに見合った形に変えていかなければ難しいと思う。
前川教育長	専門的な方に来ていただきたいと考えている。教員も自分たちが気付かなかったことを学ぶことができる。そうすれば、保護者も生徒もより部活動が楽しくなるし、安心することができる。
酒井市長	教員ですべての部活動を見ることはできないため、特定の種目に限らず全体を見る人を配置してはどうか。また、特定の競技を見る方についても、その競技に精通していなくても、責任をもって部活動を見てくれる人を配置してはどうか。
前川教育長	資料5「部活の考え方、適正数」の中で県教委が述べている「部活動は生徒の自主的・自発的な参加により行われることが何より大切」はこのとおりである。「学校や教員はこれを支援するものである」となっているがこの支援については、県教委は具体的なことを示していない。 支援のあり方として、篠山東中学校では子どもたちが1年生の時に選んだ部活動を3年間は継続できるようにした。しかし、賛同を得なかった。保護者もこの取り決めはよくないと言われている。しかし、学校は入部したことを支援しようとした。だが、結果的に支援したことにならないという解釈になっている。 総合的に見て、この生徒数の中から教員を見て子どもたちの意向を考えたときに合同チームをありとしても絞らざるを得ない状況は生まれる。それを外部から来た専門家が校長にアドバイスができたらと考えている。この課題に対しては、状況を分析し、地域の方々の信頼を得て保護者とコンタクトがとれる参謀的な方を配置できるようにしたいと考えている。
酒井委員	資料2の5ページ「生徒を伸ばす指導」は、教員でもなかなかできないことである。そのため、部活動指導員にお願いすることはレベルが高いこ



前川教育長	<p>とである。しかし、これができないと安心して部活動指導員に任せることができないため、専門性の高い、課題に対応できる方でなければ、現場も大変であると思う。</p> <p>全体を見るような部活動指導員として、他でもスポーツに関わりがあり、丹波篠山市の部活動にアドバイスができる人材を求めている。</p>
酒井市長	<p>しかし、あまり難しいことを言うと部活動指導員がいなくなってしまう。熱心に責任をもって部活動を見てくれる人で良いのではないか。</p>
前川教育長 垣内委員	<p>確かに、専門的なことを言い過ぎると人は集まらない。</p>
酒井市長	<p>10名の方が部活動指導員として採用となっているが、保護者の方が望む部活の継続のためには、あと何名ほどの部活動指導員が必要なのか。</p> <p>今年度は不足しているところに10名の配置を行い対応したということではないのか。</p>
酒井次長	<p>そうである。入学する子どもの数や入部する部活動は、毎年変わっていくため、部活動を数年先まで維持することについて、部活動指導員の人数で決められるものではない。担当顧問についても異動等があり、それも考慮しての部活動指導員の配置を毎年考えていかなければならない。</p>
垣内委員	<p>保護者からの意見については、応えていかなければならないと思う。保護者の意見の中で気になるのは、「教育委員会で検討すると不安を覚える」、「市長と教育委員会に温度差を感じた」といったことをなぜ保護者の方が感じているのかということである。部活動指導員を募集し、配置しているといった努力をしているにも関わらず、「教育委員会は頭が固い」などという理解であるため、そういったことを解いていかなければならない。保護者の意見に応えるためには、目標等で努力を示さなければならぬと思う。</p>
酒井委員	<p>部活動は様々な希望があるため目標の設定についても難しいことだと思う。そのため、整理を行わなければならない。</p>
酒井市長	<p>各学校に部活動指導員を1人付けることはよいことである。そのうえで足りないところは対応していくとすることで仕方ないのではないか。</p> <p>今回の篠山東中学校の件について、2年間で1. 2年生が9名いなければ廃部というのはきつい規定である。今年であれば後1人入部すれば9人になるがそれもできないというのは機械的、形式的な対応である。何が何でも減らすのが正しいという学校の理屈があまりにも冷たいと思う。</p>
酒井委員	<p>学校に支援がない中で対応であるため、学校の責任にはできないと思う。学校現場はぎりぎりの中で部活動を行っていた現実がある。学校現場に我々の応援がなかったということも理解しておかないといけない。</p> <p>やっとな、県が方向性を示し、人的予算がついた状況である。送迎についても予算の裏付けがないとできないと思う。</p>
酒井市長	<p>前回の総合教育会議で校長が、「ホッケーを合同チームとして認めていることは問題である」と言われていた。この言葉は撤回していただきたい。現在、ホッケーは合同で行っているがそれを「潰す」といった意味で聞こ</p>

酒井委員	えた。
酒井市長	<p>確かに言われていたが、それは、「特別待遇」といった意味であり、「潰す」といった意味ではないと思う。</p> <p>「潰す」とは言われていないが、認めていることがおかしいといったことであったと思う。</p> <p>前回の総合教育会議での代表校長の発言は、率直に言って、総合教育会議の中で述べてよいのかといった内容がたくさん含まれていると思う。</p> <p>「合同チームを認めない」、「部活動指導員は認めない」、「部活を潰すことは正しい」といったことを堂々と言われたことは、校長会の代表として、総合教育会議で言われた内容は、教員としてのあり方に即していないのではないか。</p>
酒井委員	<p>代表校長の、このままでは学校現場が持たないという現状の中で話される切羽詰まった思いは、受け止めるべきと思う。ただ、誤解を生じるようなことがあったかもしれない。現場を預かる立場として、「教員がいない中で部活を存続させる」と言われたら「学校現場をどう回せばよいのか」ということも理解できる。校長会代表としての責任感から言われているので受け止めることも必要と思う。</p>
酒井市長	<p>今まで市に対して部活動指導員の配置や部活存続について学校から声があったのであれば納得する。しかしそうではない。学校は学校の理論で廃部にすることが正しいとしてきた。それが、やっと議題として挙がってきた何もない、廃部となっていた。</p>
酒井委員	<p>現場の声を校長会の代表として述べている。そして学校現場が窮地に立っているにも関わらず、教育委員会の動きが鈍かっただと感じている。このことについて市長はご存じでなかった。しかし校長会は事務局に伝えてきていたと思っている。しかし、伝わっていなかった。行き違いがあったということで今回、市長が仕切り直しをした。</p>
酒井市長	<p>私が心外なのは「開かれた学校、地域のためにある学校」をスローガンとして10年、15年してきているのに学校の教員方がそのことを思っているのかということである。だから、今回の部活動の問題についても市長あてに署名が来たのではないか。また、もっと前からこのような部活動の問題はあったはずである。</p>
酒井委員	<p>部活のことについては、配慮が足りなかったかもしれないが、学校は学校教育の中で子供たちに寄り添うという立場である。部活に力を入れるのはよいかもしれないが、学校全体を見たときにどうかという総合的な判断をされた部分があると思う。そのため、学校現場が怠慢であるとは言いきくと思う。部活動の件については、意思疎通が十分ではなかったかもしれないが、学校は子供のために一生懸命である。</p>
酒井市長	<p>姿勢が大切である。地域の声や様々な声を聴いて何とかしようと思うのか学校のことは学校で決めるとしてしまうのかである。学校で決めてしまうのであれば心外であると思っている。</p>

前川教育長	<p>今回の件については教育委員会事務局も心にとどめておいてほしい。市長として、学校の教育現場に入ることはしないが、学校を盛り上げて、地域を盛り上げようとしている。このことを学校は軽く見ているのではないか。そうでなければこんな発言は出ない。</p> <p>校長との話での推測ではあるが、都合が悪いことが言えていなかったのではないかと感じた。保護者の期待がわかっているからこそ、自分たちで取り決めたことを承諾してもらうにためらいが生まれ、一緒になって議論する機会を失ったのではないかと感じた。年度当初の学校運営協議会で、この問題について提案し、スタートできていれば違ったかもしれない。学校が4月の段階でこの件について大きな課題であるとして、協議会で議論できていなかったことは、教育委員会を含めて大きな反省点である。</p> <p>また、なぜできなかったかということについて、これまで学校は万能であるようなことを求められ続けてきた。学校であれば、何でも解決してくれるといった世間の見方があった。今回の部活動の件は非常に大きな問題であるため、地域に投げかけができていればよかったが、学校内で何とかしようとしてしまったのではないか。</p> <p>だから、今このようなスタイルを払拭していこうとしている。学校は万能感を持ってはいけなし、どんな問題も解決できるということはない。だからみんなで知恵を出して課題を乗り越えるというスタイルをつくらないといけない。みんなが考えるという風土をつくっていかないといけないと思っている。</p>
酒井市長	<p>部活動の規定について、丹波篠山市版の「いきいき運動部活動」が必要である。「ゆとり」、「指導の充実」、「安全な部活動」については、事務局が作成する。「開かれた部活動」と「持続可能性」をどうするか、次回までに教育委員にも考えていただきたい。</p> <p>そして、次回「部活動の廃部の規定」や「丹波篠山市の部活動の指針」について検討していきたいと思う。</p>
酒井委員	<p>事務局が作成する部分と懸案事項として協議する内容について、整理を行う。新制度の導入と持続可能な丹波篠山市の部活動のあり方を整理して作っていったらと思う。</p>
酒井市長	<p>ここでの話は、学校へ伝えていただき、その中で校長と協議が必要であれば行う。中学校の校長で部活を見ておられる方の声も聴かなければならない。市内でスポーツの指導者をしている方にも、今の状況を伝え協力を求めることも必要と思う。</p> <p>教育委員には、次回総合教育会議までに具体的な内容を考えていただきたい。「合同チームを設けるためにどうするか、規定をどうするか」といった具体的なことである。</p>
酒井委員	<p>丹波篠山市の部活動について、団体種目はなるべく存続させるといったことであるか。</p>
酒井市長	<p>存続させるためにどうするかということである。</p>

酒井委員	これまでの経緯の中で教育委員会が作った原案があるはずである。それをもとに特に問題となっている部活動の存続について検討することで良いか。
酒井市長	良いと思う。存続を目指すとき、廃部とするしかない時がある。その時に選択の余地を残すということである。
前川教育長	そういったときに、子供たちの主体性、自発性が発揮される場面が設定されているということであるか。
酒井市長	そうである。
酒井市長	「丹波篠山市の合同チームのあり方」、「各校の部活を存続させるための手立て」に加えて「校区選択制度」についても検討するのか。
酒井委員	部活動のための校区外就学の導入については難しい。校区がぐちゃぐちゃになる。
酒井市長	拠点校方式についても県教委は言っている。そこまで踏み込んで考えるかどうかということである。
酒井委員	小規模校が増えている中で、拠点校方式を持ち込むと生徒の数が読めなくなる。
前川教育長	項目について市長と教育委員会で話し合いを行い、その項目について教育委員の意見を言う形がよいのではないか。
酒井委員	項目については、「部活動指導員」、「合同チーム」、「複数顧問の在り方」、「不在時のルール作り」である。
酒井市長	併せて「合同チームの際の送迎の問題」である。
前川教育長	次回の総合教育会議までに教育委員会内で協議を行う。
酒井委員	よろしく願います。
酒井市長	以上で令和2年度第1回丹波篠山市総合教育会議を終了する。